

北海道新幹線(新函館北斗・札幌間)の整備に関する有識者会議(第11回)

議事概要

令和6年11月18日(月) 14:00~16:00

於: 中央合同庁舎2号館地下1階 第2会議室 A・B

- 渡島トンネルについて、長尺ボーリングで採取されたコアを用いた試験結果から、現時点では現状の厳しい地質が好転する兆候は見られないことを改めて確認するとともに、トンネル掘削データの詳細な分析と地質の専門家へのヒアリングの結果、現在掘削が難航している箇所地質は成り立ち故に複雑であることを確認した。
- 土木工事に続いて実施する設備工事の工程については、考えられる限りの短縮策を挙げた上で、その前提条件や工事に使用するヤードの競合が回避できるかといった実施する上での課題について議論するとともに、北海道の地域特性も踏まえたリスクの議論を行った。ここでは、工程への影響が大きいリスクとして、工事の契約手続きにおける不調不落の発生などのリスクが存在すること、その対応のために発注者が前広に情報公開し、可能な限り早期の契約手続きを実施する必要があることを確認した。
- あわせて、開業に必要な監査・検査の工程については、北海道の現場条件を踏まえた監査・検査の手順、内容や工程の前提条件を確認し、必要な期間や短縮の可能性などの議論を行った。
- 次回に向けては、本日の議論を踏まえて、個々の工事のみではなく、土木工事、設備工事、監査・検査の相互の関係も踏まえて、全体工程の検討を進める必要がある。

以上